

## 安全作業手順書 【[雪氷]排雪作業】



セーフティーバイブル

見積もり基準をした危険性の評価			
重大性(B) 可能性(A)	○ 軽微 (不休と休業3日以内)	△ 重大 (休業4日以上)	× 極めて重大 (死亡・障害が残る)
○ ほとんど起こらない (5年に1回程度)	○○ (極めて小さい)	○△ (かなり小さい)	○× (中程度)
△ たまに起こる (1年に1回程度)	△○ (かなり小さい)	△△ (中程度)	△× (かなり大きい)
× かなり起こる (6ヶ月に1回程度)	×○ (中程度)	×△ (かなり大きい)	×× (極めて重大)

危険性又は、有害性の評価と危険度の判定基準例			
危険性の見積もり	危険性の評価	危険度	判定
××	極めて重大	5	即座に対策が必要
×△、△×	かなり大きい	4	根本的対策が必要
×○、△△、○×	中程度	3	何らかの対策が必要
△○、○△	かなり小さい	2	現時点では必要なし (様子を見る)
○○	極めて小さい	1	対策の必要なし

作成日・ 改正日	2025/4/1 (前回改正：2024/4/1)	現場名	東名高速道路(豊田IC～春日井IC) 名古屋第二環状自動車道 (名古屋IC～飛鳥北IC,有松IC～上社JCT)
機器工具 ・車両	トラクターショベル、パイロローダー、ダンプトラック	保護具	ヘルメット、安全チョッキ、安全くつ ゴム手袋、軍手

作業区分	作業手順・作業内容	急所
準備工	作業確認 作業の打合せ(KY)を行なう 作業員の役割(運転手、助手)を決める コースを確認する 車両の出発前点検を行う	作業員全員で 免許証・免許区分の確認を運転手・助手の二人で行って 通行止めの完了確認をとってから 車両回送手順書に則り
本作業	出発	基地等、敷地内から車道へと進入する 周囲の安全を補助員と共にしっかり確認して
	回送	25.車両回送手順書に則る
	作業前確認	排雪箇所に2名監視員を配置 ダンプに雪を積込む ①名二環の場合、集積した雪を名二環(上)22.8kp石作高架橋下に投雪する ②名二環西南部の場合、内回り飛鳥北ICを下り指定場所に運搬し排雪する。 ③東名の場合、東名三好ICランプの指定場所に運搬し排雪する。 また、守山SICで発生した雪はSIC内ブラの指定場所に排雪する
	離脱	現場を離脱する 路面状況を確認して
	作業途中	Uターン及び回送を行う Uターン、回送及び帰着の連絡を行う
後片付け	給油、洗車を行う	車両状態を確認して
駐車	駐車する	バックによる駐車の際は、必ず補助員のバック誘導に従い

危険ポイント (～なので～になる)			リスクの見積り			安全対策(危険度2以下へ) (私達はどようする)			リスクの再見積り			
(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク	(A)	(B)	リスク	
△	×	4	○	×	3	全員で手順書、KYの内容を周知する	○	○	1			
○	×	3	○	×	3	乗車時に必ず免許区分明示車両ステッカーを確認する	○	△	2			
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
車両回送手順書に則る												
△	×	4	○	×	3	必ず上下での合図を確認した上で投雪する	○	○	1			
○	×	3	○	×	3	周囲に十分注意して、監視員を1人決めて作業を行う	○	○	1			
○	×	3	○	×	3	①投雪の場合、必ず排雪位置を確認し、下場の監視員を配置する ②または③の場合、排雪場所にダンプ誘導員等を配置する。	○	○	1			
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
△	×	4	△	×	4	走行前に必ず運転手、助手の二人でレーンの確認を行う	○	○	1			
△	×	4	△	×	4	一般道の情報は入りづらいので、最徐行に努める	○	△	2			
△	×	4	○	×	4	洗車前に必ずバルブの確認を行う	○	○	1			
×	△	4	○	△	4	必ずバック誘導員を配置し、後方及び周囲の確認を行いながら駐車する	○	△	2			